

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【日高振興局】シールディングマルチ栽培実践園見学
～令和6年度由良町農業士会第4回研修会にて～

令和7年3月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 普及活動実績報告会を開催	
2. 和海地方生活研究グループ連絡協議会が「食の交流会」を開催	
II 那賀振興局	2-3
1. 那賀地方農業士会女性部会が講習会・総会を開催	
2. オーガニックビレッジ準備会が研修会を開催	
3. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催	
4. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会・総会を開催	
III 伊都振興局	4
1. 高野山麓精進野菜栽培講習会の開催	
2. 新規就農者研修会(柑橘)の実施	
IV 有田振興局	5-6
1. 令和6年度 カンキツ栽培におけるドローン研修会を開催	
2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
3. 令和6年度 有田地方農業士協議会女性部会・有田農業女子プロジェクト 合同研修会を開催	
V 日高振興局	7
1. 日高地方農業士会地域リーダー研修会を開催	
2. 令和6年度由良町農業士会第4回研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	8-9
1. いちご生産者を対象に第2回スマート農業勉強会を実施	
2. 女性農業者セミナーを開催	
3. イタドリ栽培研修会を開催	
VII 東牟婁振興局	10
1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～第二回出荷検討会(めならし会)を実施～	
VIII 農林大学校	11
1. 紀北農芸高校と合同で就職ガイダンスを実施	

1. 令和6年度テーマ提案型研修の報告会を開催

I 海草振興局

1. 普及活動実績報告会を開催

和海地方総合農政推進協議会（会長：尾花正啓氏、構成：管内各市町、J A、農業共済組合）は、3月26日、海南 nobinos において、普及活動実績報告会を開催した。

初めに農業水産振興課職員から令和6年度の普及活動実績として、重点課題の「若手生産者を中心としたいちご産地の再興」、一般課題の「日本農業遺産みかん・びわ産地の振興」、「地域で守る農業を目指して」について説明を行い、参加者から意見を頂いた。続いて、令和6年度の協議会事業報告を行い、最後に各参加者の現状や今後の取組などについて意見交換を行った。

参加者からは「近年の高温で収量の減少や病害虫の異常発生が起きている」、「栽培方法を見直す必要がある」などの意見があった。

当課では、頂いた意見を踏まえて、来年度も関係機関と連携し、普及活動に取り組んでいく。



普及活動実績報告

2. 和海地方生活研究グループ連絡協議会が「食の交流会」を開催

3月4日、海南 nobinos において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：奥 博子氏）が地産地消促進と情報交換により農村女性活動の活性化を図るため、「食の交流会」を開催し、会員と関係者等40名が参加した。

和歌山県栄養士会会長 川村雅夫氏から「食育とはなにか、その重要性和栄養士会での取り組み」と題しての講演と、各市町の生研グループからだいこんを使った料理レシピ（計11品）の紹介が行われた。

参加者からは「食材の摂取量の事など知らないことがたくさんあったので今日の講演はよかった」、「生研グループのだいこんを使ったレシピは、アイデアがたくさんあり、料理は工夫一つで幅が広がるのだな」と感心した」などの意見があった。

この会を通じて参加者は講演等で知識を深め、改めて地産地消や食育の大切さを再認識していた。農業水産振興課は、今後も地域の活性化につながるような地産地消や食育の取組を支援していく。



川村雅夫氏の講演

Ⅱ 那賀振興局

1. 那賀地方農業士会女性部会が講習会・総会を開催

3月10日、那賀地方農業士会女性部会カトレア会（部会長：林 澄代氏）の講習会・総会が開催され、会員8名が出席した。

講習会では、会員の台丸谷 久実氏が講師となって、日本ミツバチの蜜ろうを使ったハンドクリーム作りに挑戦した。参加者は、自分に合った香料を選び、ハンドクリーム作りを楽しんだ。

総会では、すべての議案が原案通り可決され、台丸谷氏が会長に選出された。

総会後は、今年度で退会する稲垣明美氏の送別会と意見交換会を行った。身近で起きた農作業事故について事例をもとに意見を交わし、農作業中の事故防止対策の重要性を再認識した。



蜜ろうの溶かし方を説明する台丸谷氏



退会する会員を囲んで

2. オーガニックビレッジ準備会が研修会を開催

3月11日、オーガニックビレッジ準備会（会長：関 弘和氏）は、有機農業に取り組む下坊康弘氏と角 泰造氏を講師に研修会を開催した。

下坊氏からは「脱サラ農家が有機農業を選んだ理由」と題し、就農前の有機農業のイメージと就農後に感じたメリットやデメリットについて話があった。

角氏からは、自身が主となって農業をするようになり、薬剤散布で体調が悪くなった経験や、農薬の効果について疑問に感じ有機栽培での水稻に取り組んだこと、慣行栽培と有機栽培の両方を実践し、比較した結果について話があった。

研修会終了後は、それぞれの栽培方法や取り組みに関する意見交換が行われた。



角氏の講演を聴く参加者

3. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催

3月4日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は、トヨタ自動車株式会社アグリバイオ事業室現場改善グループの石川新樹氏を講師に迎え、「トヨタ式カイゼンで農業も進化！」と題した研修会を開催した。

研修会では、二度の倒産危機を経験しながらも、トヨタ自動車が徹底して無駄を排除することで経営を立て直した方法や、整理整頓方法などのトヨタ式カイゼンの話を聞いた。

参加者からは、「ルールを決めても忘れてしまったり、続かないときはどうすれば良いか」という質問があり、石川氏からは「心を鬼にして続けることが大事」との回答があった。



トヨタ式カイゼンについて熱心に聴く参加者

4. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会・総会を開催

3月28日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は、令和7年度総会・研修会を開催し、27名が出席した。

農研機構農業環境研究部門気候変動適応策研究領域長 西森基樹氏を講師に招き「気候変動と近年の農業気象の変化・その農業への影響」と題し、オンラインで研修会を開催した。

研修会は、平均気温の上昇、大雨や大型台風の発生などの気候変動と、夏の高温の影響とその対応策に関する講話であった。

参加者からは「鳥獣害の被害も異常気象の影響で多くなるのか？」といった質問があった。



農研機構とオンラインで繋いだ研修会



事業報告をする小林会長

Ⅲ 伊都振興局

1. 高野山麓精進野菜栽培講習会の開催

伊都地域では、平成 31 年 3 月に高野山麓農産物産地化協議会（橋本市、橋本市農業委員会、J A 紀北かわかみ、農業者、農産物販売業者、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）を設立し、「高野山麓精進野菜」としての栽培基準を設け地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

3 月 5 日、橋本市役所において高野山麓精進野菜栽培講習会が開催され、新規栽培希望者 9 名が参加した。はじめに、橋本市農林振興課秋山課長補佐から高野山麓精進野菜の定義やコンセプトについて説明があった後、農業水産振興課山田主査から春夏野菜の栽培方法や高野山麓精進野菜の農薬・肥料の基準について説明を行った。参加者からは、「減化学農薬、減化学肥料の基準はどのようにして決められたのか」、といった意見があり、協議会事務局が対応した。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて高野山麓精進野菜の生産拡大を支援していく。



講習会の様子

2. 新規就農者研修会(かんきつ)の実施

3 月 25 日、農業水産振興課では、新規就農者及び J A トレーニングファーム受講生を対象に柑橘に関する研修会を開催し、2 名が参加した。

本研修会は、新規就農者の栽培技術の向上と新規就農者同士の交流を目的としている。

研修会では、かんきつ農家の草田明信氏を講師として招き、自身の経営概要や栽培品目の紹介、栽培方法についての説明があった。続けて、かんきつのせん定方法について実際に剪定を行いながら説明が行われた。

参加者の中にはこれからかんきつの栽培を考えている方もおり、熱心に話を聞いていた。また、「かきと比べてせん定量が少ないので区別が難しかった」、「常緑樹のせん定は葉が残っているので骨格が見づらく大変」などといった声があった。

当課では、今後も新規就農者支援に取り組んでいく。



経営概要の説明



せん定の様子

Ⅳ 有田振興局

1. 令和 6 年度カンキツ栽培におけるドローン研修会を開催

3月3日、農林水産振興部が主催となり、果樹試験場において、「ドローンが切り拓くカンキツ栽培の未来！」と題して、スマート農業に興味のある生産者や関係者 177 名が参加する盛況の中で、ドローン研修会を開催した。

本研修会では、協力企業によるドローンの展示、講演、デモンストレーションおよび相談ブースに加え、4 Hクラブや果樹試験場からの講演を実施した。

まず、有田振興局農林水産部の瀧部長から、「参加人数の多さから関心の高さが感じられます。」と、お礼を含めた開会挨拶を述べた。

講演では初めに、合同会社寺田、株式会社未来図、株式会社オプティム、株式会社東海近畿クボタから、ドローンによる薬剤散布について、各社の特徴の説明とPRが行われた。

続いて有田川町4 Hクラブの小川氏から「柑橘栽培におけるドローン防除の可能性」、県果樹試験場の衛藤主任研究員から「カンキツ栽培におけるドローンを活用した肥料散布」の講演、当課から「次世代につなぐ果樹産地づくり事業」、農地課から「スマート農業に対応した基盤整備事業」等の紹介が行われた。

その後、各社からドローンによる薬剤散布の実演があった。最後に相談ブースへ移動し、各協力企業の商品説明やかんきつ類ドローン散布サービスの請負業務に関する案内があった。

参加者らは各ブースで薬剤散布の請負、機体の購入、操縦免許の取得方法、支援策や補助金に関して熱心に相談していた。

今後は関係機関だけに限らず農業士会や4 Hクラブ等の協力も得ながらドローン研修会を開催したいと考えている。

また、急傾斜地が多い有田のみかん産地において、ドローンによる薬剤散布だけに限らず、施肥、運搬、除草、水管理、鳥獣害対策等、スマート農業技術が進化することにより、就農希望者の不安が軽減され、産地の活性化につながると考えられる。



盛況な講演会場



ドローン（写真中央）による薬剤散布の実演

2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

3月7日、有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催し、19名の会員が参加した。

有田管内で植物雑貨作りの講師として幅広く活躍されている西川千秋氏を招き、多肉植物の寄せ植えづくりが行われた。参加者は講師の説明を受けながら丁寧に寄せ植えを行い、それぞれの個性が溢れる寄せ植えが完成した。

今後も農業水産振興課は会員が希望する研修会を支援していく。



多肉植物の扱い方の説明
(中央：西川千秋氏)



寄せ植えづくりの様子

3. 令和6年度有田地方農業士協議会女性部会・有田農業女子プロジェクト合同研修会を開催

3月12日、農業水産振興課は、有田振興局において標記研修会を開催し、女性農業士等6名が参加した。第1部は元総合スーパーマーケット販売員という経歴を持つ当課の大野智帆主事が「モノを売るということ」という演題で講演を行った。第2部では、講師の大野主事をアドバイザーとして、意見交換を実施した。

参加者からは青果の販売を行う際の日頃の悩み、値段の付け方や昔からの常連客との付き合い方、新規顧客獲得のための工夫、SNS、POPを活用した上手な宣伝方法など、活発に意見が交わされ、大野主事がアドバイスした。参加者からは「日頃の悩みをここで知りあった仲間と共有でき、大変参考になった」等の声上がり、非常に好評であった。

当課では、今後も定期的に研修会を開催し、女性農業者同士の交流の場を作り、支援していく。



研修会の様子



意見交換の様子
(右端：アドバイザー大野主事)

V 日高振興局

1. 日高地方農業士会地域リーダー研修会を開催

3月18日、日高地方農業士会（会長：清水俊夫氏）は、農業士相互の研さんと親睦を図るため先進地研修を実施し、6名が参加した。今回は兵庫県淡路島で、廃校になった校舎やグラウンドを活用してマルシェや農業体験等を行い、地域活性化に取り組み、更に宿泊事業を展開している「のじまスコーラ」、「アグリミュージアム NADA」で研修を行った。「のじまスコーラ」は、立地条件を活かした観光者向けのマルシェや農村レストランを展開している。また、「アグリミュージアム NADA」は、農業研修の受入や、宿泊事業を行っている。淡路島は観光業が盛んであるなど条件は違うが、地域づくりを考えていく上での参考となったという意見が聞かれた。



アグリミュージアム NADA での研修

2. 令和6年度由良町農業士会第4回研修会を開催

3月28日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）は、有田地方で現地研修会を開催し、会員10名が参加した。有田振興局の古田普及指導員の案内で、湯浅町の「あおさん」ほ場を見学し、育成者から栽培特性、管理技術について説明を受けた。続いて、高品質果実栽培新技術であるシールドイングマルチ栽培の実践園を見学し、技術概要が古田普及指導員から紹介された。最後に有田川町4Hクラブ員の小川氏園地で、ドローン防除の実情について話を聞くことができた。

参加者からは、「あおさんの栽培特性を知ることによって導入に対するハードルが下がった」、「ドローン防除技術が日々進歩していることがわかったので、近い将来地域ぐるみでドローン防除に取り組みたい」との声が聞かれた。



シールドイングマルチ栽培実践園見学



ドローン防除の実情について研修

VI 西牟婁振興局

1. いちご生産者を対象に第2回スマート農業勉強会を実施

3月18日、農業水産振興課は環境制御装置の導入や活用を検討しているいちご生産者を対象に、スマート農業勉強会を開催し、若手農業者4名が出席した。

西牟婁地域では、炭酸ガス施用機や環境モニタリング装置の導入など、スマート農業に取り組む生産者が増えており、当課では、令和6年度から普及指導計画の活動として、管内のいちご栽培施設へデータロガーを設置し、測定データと収量、品質（糖度）及び生育調査の結果を栽培管理に活用するための取組を支援している。

当課の伊藤副主査から、佐賀県杵島地域及び長崎県県北地域のスマート農業導入推進の取組や、長崎県で反収9.7tを達成した農業者の事例、また管内での2月末までの収量、品質及び施設内環境の測定結果について説明をした。参加者からは「高反収を実現するには炭酸ガス施用が重要であることが改めて分かった」との声があった。



佐賀・長崎県の事例説明

2. 女性農業者セミナーを開催

3月24日、農業水産振興課は田辺市生涯学習センターにおいて、農業士会女性部会員及び生活研究グループ員29名の参加による女性農業者セミナーを開催した。

今回、研修内容を検討する中で、「肉の代替品として、ヘルシーな大豆ミートについて学びたい」との声を受け、発酵ライフクリエイターで薬剤師の発酵未来塾代表の津村千賀氏を講師に迎え、大豆ミートや発酵食品を活用した6品（「梅酢玄米入りご飯」「お味噌汁」「大豆ミートの唐揚げ」「大豆ミートの麻婆豆腐」「梅の佃煮」「春野菜のお漬物」）を調理した。

でき上がった料理は、意見交換しながら試食した。唐揚げや麻婆豆腐は、大豆ミートとは分からないくらいおいしくでき、その他の品も簡単に味わい深く、たいへん好評であった。

また、NPO法人わかやま環境ネットワーク大滝真緒氏から、環境について考える講話があり、食品ロスの削減やコンポスト等について考える良い機会となった。



津村講師からの説明

3. イタドリ栽培研修会を開催

3月11日、農業水産振興課は県林業試験場において、イタドリ栽培研修会を開催し、生産者、JA紀南営農指導員、県関係者15名が参加した。

はじめに、イタドリの栽培や販売状況を把握するため、昨年6月に実施したアンケート調査結果について、当課から説明した。

参加者への聞き取りの結果、管内のイタドリ栽培は、バイオセンター中津（日高川町）から優良系統苗を購入して栽培している方や、山採りしたものを自家消費のほか、直売所や地元の旅館へ販売したり、自営の民宿で使ったりしている方が多いとのことであった。

また、県林業試験場の是澤主任研究員から、「イタドリ栽培と利活用」をテーマに講義があり、その後、試験場での試験研究内容について説明があった。参加者からは、「実際栽培する上でたいへん参考になる話を聞けて良かった」との声が聞かれた。



試験研究内容の説明

VII 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～第二回出荷検討会（めならし会）を実施～

3月5日、那智勝浦町苺生産組合（会長：松出真紀氏）は、JAみくまの営農経済センターにおいて、いちご「まりひめ」の出荷検討会（めならし会）を実施し、2番果の規格の見直しを検討した。当日は、生産者14名、JAみくまの職員3名及び農業水産振興課1名の計18名が参加した。

2番果の初期には大果の割合が多く、確認できるのはこの時期しかない。特に扇形の大きな果実は生産者によって優品とA品の区別にバラツキが大きく、議論が尽きなかった。生産者からは、「さちのかを育てていた時と比べ、まりひめの形がよいこともあり、A品の質が上がってきている」、「持っている出荷規格表の年度が人によって違うのではないかな」等意見があり、出荷規格表を再配布する等出荷基準の統一が進むよう改善に努めた。

また、「くろしおいちご」をPRするため、新たにクリップ式のミニノボリが作成された。段ボールに挟むことができるため、より簡易にPRできる。



出荷基準について議論



新たに作成されたミニノボリ

VIII 農林大学校

1. 紀北農芸高校と合同で就職ガイダンスを実施

3月7日、紀北農芸高校第一体育館において、同高校と合同で令和7年度卒業予定者の就職ガイダンスを実施し、学生・生徒あわせて66名が参加した。

本ガイダンスは、学生・生徒の就職活動を支援し、進路決定の一助とすることを目的に、平成30年度から実施している（高校との合同開催は令和元年度から）。

本年度は、採用を予定している県内外の農業関連企業や農業法人など16社の協力を得て実施することができた。企業毎に設置したブースで、学生は興味のある企業等の人事担当者から仕事内容や待遇などについて説明を受けた。学生にとっては就職活動の第一歩であり、熱心に話を聞き、質問するなど、就職活動への意識の高まりが感じられた。

参加した学生から「今回の説明会で、興味のある企業に聞いたかったことを聞くことができた。今後の就職活動に活かしていきたい」との声があった。

本校では、就農を希望する学生、就職を希望する学生、それぞれの希望に応じた支援を継続して行っていく。



ガイダンスの様子



各ブースの様子

IX 経営支援課

1. 令和6年度テーマ提案型研修の報告会を開催

当課では、普及職員が地域農業の課題解決に向け必要な知識と技術を学ぶため、研修者自らが学びたいことを研修テーマとして県内外の研修先と調整を行い、研修を行う「テーマ提案型研修」を令和6年度から実施している。

3月19日、和歌山県民文化会館において、本研修を活用した普及職員2名による実施結果報告会を開催し、普及指導員ら19名が出席した。

まず、日高振興局農業水産振興課の柏木普及指導員から、広島県でかんきつの栽培技術や品種に関して、試験研究機関や主産地を訪問した内容について報告された。次に、西牟婁振興局農業水産振興課の伊藤副主査から、佐賀県及び長崎県において、いちご栽培に関するスマート農業の取組状況やパック詰めシステムについて研修した内容について報告された。

出席した普及指導員から、他産地の取組に関して積極的に質問があった。本研修が研修者のみならず各地域での普及指導活動に活用されることを期待したい。



研修者による発表

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489